

令和7年度 第2回 佐藤小学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和7年7月23日(水) 13時25分から15時25分まで
2. 開催場所 浜松市立佐藤小学校 会議室
3. 出席委員 尾上 弘、酒井 里江子、伊藤 安男、湯山 紀美代、安富 小織、一ノ瀬 正行、
鈴木 涼介
4. 欠席委員 なし
5. 学 校 松下 欣美（校長）、高木 康泰（教頭）、大石 葉子（CS担当）、
坂倉 祥子（CSディレクター）
6. 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
7. 傍聴者 なし
8. 会議録作成者 CSディレクター 坂倉 祥子
9. 議長の選出

尾上会長から議長を務めることを申し出、全員意義なく承認した。

10. 協議事項

（1）「教育課程中間評価」の概要

（2）協議 ①地域の宝を生かした教育活動を進めるために、学校・保護者・地域ができること

②自分のよさを見つけられる子を育てるために、学校・保護者・地域ができること

（3）教職員と協議した2点について、保護者・地域が取り組むことと具体的な方法、役割分担を決定する。

11. 会議記録

司会の教頭から、委員総数7人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）「教育課程中間評価」の概要

議長の指示により、大石から、別紙資料に基づき教育課程中間評価について説明があり、今後の課題について共通理解した。

（2）協議 ①地域の宝を生かした教育活動を進めるために、学校・保護者・地域ができること

②自分のよさを見つけられる子を育てるために、学校・保護者・地域ができること

職員を交えた4つのグループに分かれ、①・②について協議を行い、各グループの代表者がまとめを発表した。

Aグループ この地域の伝統産業や緑道活動を生かして、地域に貢献できるような活動が出来たら良い。

学年をまたいだ発展的な学習として取り組むことで、子供たち自身が地域の一員として主体的に関ることができるよう育てていきたい。地域との関わり方を考える過程が、コミュニティの一員として役に立っていかうという生涯学習へつながると考えている。

Bグループ ①キャリア教育をしていく上で地域の事業所の方にお話を伺いたいが、異動がある職員には難しい現状がある。地域住民でなければ知りえない情報を記録に残すなど、地域や保護者と協力出来たらありがたい。②相手の良さを見つけることが自分の良さに気づくきっかけになるので

はないか。相手に伝える手段を言葉だけでなくカードにするなど工夫したり、声を互いに掛け合うことで充実感を持って生活していったらいい。

Cグループ 学校側の要望を整理整頓していきながら地域の人へ伝えることで、人が人を呼び、広がっていったらと思う。総合的な学習の時間等を通じた地域との関わりを生かしていくためには、数年後に控える創立100周年を一つのきっかけにするなど、学校が地域を知り、地域に要望を伝えていく事が必要なのではないか。

Dグループ ①地域の祭りなど、子供たちにとっては生まれた時から当たり前にあるものを、すてきなこと、宝なんだと価値づける事ができるのは学校なのではないか。②子供たちが家に帰って話したくなるような、家庭で自然と褒められる環境になるように、子供たちが成功体験を積める教育活動や場を作っていけたら良い。

(3) 教職員と協議した2点について、保護者・地域が取り組むことと具体的な方法、役割分担を決定する

教職員との協議について、委員からは以下の発言があった。

安富委員 創立100周年がきっかけとなり、地域の人が学校に入ってくるようになれば良い。

伊藤委員 創立100周年に関して、立ち上げの具体的な話は出ている。また学校側とも話を詰めていきたい。

尾上委員 例えば地域の中で夏休みラジオ体操クラブ等を作りチラシを学校で配ってもらって、佐藤小の子供たちに参加してもらおう。子供会や学校に任せっきりになるのではない、そういったグループが町内で出来れば、子供が参加してくれて喜ぶ人もたくさんいるし、自然と関わり合える機会になるのではないか。

熟議の結果、地域の宝を生かした活動は、教職員と協議した課題をもとに、今年度・来年度に取り組める具体的な方法について引き続き話し合う必要があるとされた。

また安富委員より夏休み期間中に紙媒体でのボランティア募集を行いたい意向が示され、行うことになった。

その他報告事項

次回会議は、令和7年12月16日（火）佐藤小学校会議室で開催する旨の報告があり、開催時間については現在調整中であるため、決まり次第改めて連絡する。また、今後の学校公開、さところわくわくコンサート・参観会についての案内があった。